



台風はなぜ日本の南からくるの

台風は熱帯の海上でうまれる

日本のはるか南、熱帯の海上で台風はうまれます。熱帯の海は一年中太陽の熱をいっぱいうけて、水じょう気をたくさん発生させます。北太平洋からの風と南太平洋からの風が赤道の近くでぶつかって、空気のうずができると考えられています。

いったん、うずができると、うずの中心に向かって、水じょう気を多くふくんだ熱帯の空気がまわりから流れこみ、上しう気流となって積乱雲をつくります。

これがだんだん大きくなって、中心付近の最大風速が17メートル以上になったものを台風とよんでいます。

台風は西から北東へ進路をとる

台風は発生後、東風に乗って西へ進みますが、太平洋高気圧から吹き出す風に乗って北上しはじめます。

そして、本州や四国、九州の南に近づいた台風は、今度は偏西風に乗って北東に進路を変え、日本列島に上陸することが多いのです。

(監修 村山貢司)

● 台風の発生位置と進路

